

現在、知多半島生態系ネットワーク協議会の会長や地域環境調査センターの代表を務める大東憲二(大同大学特任教授)さん。大東さんは、現在では愛知県内に九つある生態系ネットワーク協議会の先駆けとなった知多半島生態系ネットワーク協議会を設立し、同協議会の連携企業の緑地を一斉公開するイベント「LOVE!GREENDAY」の開催、人形劇やゲームを通じて生物多様性を学ぶことができる環境フォーラム「GREEN SMILE FESTA」の開催などを通して、地域住民への直接的な啓発を実施するなど、知多半島地域を中心に精力的に活動しています。今回は、大東さんにいろいろとお話を伺いました。



大同大学特任教授・地域環境調査センター 代表
知多半島生態系ネットワーク協議会 会長
大東 憲二 さん

「生物多様性が感じられる地域を創造し、守ることに多くの人々が参加しているような社会になってほしいと思います。」

●環境活動を継続してよかったですは何ですか？

様々な取組に関わっていますが、その中の一つ「命をつなぐPROJECT」(愛知県知多半島の企業緑地群を舞台に、生物多様性向上と次世代の担い手育成を目指す取組)で、フリーペーパー「ecoReco aichi」を創刊したことが最大の特徴です。このフリーペーパーを活動推進の核と位置づける一方、学生の実行委員会を組織し、指導・支援しつつ、その企画、取材、掲載工程を担わせることで、次世代の担い手育成を目指しています。

これまで環境活動を続けてこられた団体は、構成員の方々の高齢化が進んできており、構成員の世代交代が喫緊の課題です。本PROJECTは、県内の大学生を中心とした学生実行委員会が、

クラブ活動のように、先輩から後輩へと環境活動を引き継いでいます。大学を卒業して社会人となっても、環境活動に関心を持ち続け、現役学生の活動を支援してくれる先輩もたくさんおられます。このような先輩がいろいろなイベントに来てくれた時は、活動を継続できて良かったと感じますね。

●環境活動を始めるにはどうすればよいですか？

花でも昆虫でも構わないので、身近な生物に関心を持ち、その生物がどのような環境で生息しているかを考えてはどうでしょうか。今の環境が、その生物にとってすみやすい環境なのかどうかを考えると、環境をどのように保全、あるいは創造していくのが良いか分かってくると思います。また、仲間がいた方が楽しく活動できますね。

●最後にメッセージをお願いします。

人々の生活を快適で便利にするために自然を改変することは避けられませんが、可能な限り生態系への悪影響を小さくする方法を考えることが重要ですので、これまで研究活動をしてきました。人間が暮らしていくためには、必ず自然に手を加えなければなりません。人間活動と自然が調和した新しい生態系を創造して維持するために、人間は知恵を絞る必要があります。目に見えない自然もたくさんあります。人間は自然をもっと理解する努力をしましょう。



講演を行う大東さん

森・緑の育成活動

特定非営利活動法人
名古屋シティ・フォレスター倶楽部

人工林における多様な生物が暮らせる森づくり事業

多様な生態系が生長・生育できる豊かな森づくりを目指して、人工林の間伐・除伐を進めるとともに、広葉樹幼木の育成や草本植生の経年変化の調査等の森林環境保全活動と、県民に対する啓発活動を行っています。



人工林の間伐とともに、広葉樹が育ち、林床植生が豊かになることで、多様な生物がすめる森が目標。座学や森林観察により森林環境保全の大切さを伝えることができました。

理事長 山田 均 さん

人工林では間伐等により継続して森を守るとともに、生態系保全の課題や保全の重要性を学ぶことができました。

参加した方の声

水と緑の恵み体感

Amor a MikawaOne プロジェクト

三河湾クルーズ「海底の謎」

西尾市一色町沿岸の三河湾において、底曳網漁船に乗船し、三河湾伝統の底引網漁を見学。水揚げされる魚介類や海底ゴミの調査を参加者全員で行いました。三河湾の海底の現状を体感的に知ることで、里海や三河湾を守っていくために一人一人が取り組むべきことがあると実感する機会になりました。



日常の中で見過ごしがちな里海の価値を共有することができました。当日は最高のクルーズ日和に恵まれ、三河湾が多くの命を育む、とても豊かな海であることも実感しました。

代表
野田 順子 さん

包装プラスチックは、古いものでもそのまま、分解されていないのが分かりました。いろいろな魚や生き物がとれて楽しかったです。

参加した方の声

森林生態系保全の学習

あいち海上の森交流会

センスオブワンダー2022

2020年に学習指導要領が改訂され、「社会に開かれた教育課程」となり、子どもの学びも多様化しています。参加者みんなで「体感」、「探す」、「語り合う」など、教室では体験できない森の中での活動を通して「生き物のふしぎさ」や「森の大切さ」を学びます。



「ここでしか」「この季節しか」「この時しか」見られない生き物を大きい子も小さい子も一緒になって探します。「よかった!」「また参加したい」の声こそ我々の励みで活動をしています。

世話人代表 大谷 敏和 さん

虫の行動にも全て意味があることを知り心を動かされました。子どもの目線になって一緒に生き物の不思議に触られました。

参加した方の声



太陽・自然の恵み学習

日進市

にっしん緑のカーテン普及啓発事業

ゴーヤやアサガオなどのつる性の植物を利用して、小中学校・保育園・福祉会館等の公共施設や家庭・事業所で緑のカーテンを育てました。カーテンコンテストを実施し、最優秀賞1名、優秀賞3名を選び、表彰しました。



成長具合を毎日確かめることが楽しみでした。ゴーヤ料理のレパートリーを増やしたいです。今後は花の咲く時期や種類を考えて、来年も頑張りたいです。

参加した方の声

緑を育てる楽しさ、収穫の楽しさ、近所の方との話題作りなど、緑のカーテンづくりには地球温暖化対策以外にも様々な効果があることが分かりました。継続実施し、カーテンの輪を広げたいです。

日進市生活安全部環境課環境政策係 祖父江 篤人 さん

独自提案による環境保全活動・環境学習

野外保育とよた森のたまご

健康な森づくりと暮らしの中の森の恵みを知る
専門家による指導のもと、生物多様性保全が維持
できる森を作っていくとともに、ウッドクラフトや草木
染めなどのイベント実施を通じて、森のサイクルと
恵みを感じられるきっかけ作りを提供しています。



講座を通して、幅広い年齢層の方に自然の不思議や生き物の発見をし、自然への親しみや重要性を知るきっかけになればと思い活動しています。

代表 遊佐 美絵 さん

普段何気なく見ているど
んぐりの名前や特徴を知
れて、親しみを感じまし
た。もっと知識を深めて
森の仕組みや重要さを学
んでみたいです。

参加した方の声

生態系ネットワーク形成

知多半島生態系ネットワーク協議会

出光興産株式会社 愛知事業所 生き物マウンドの創出

出光興産株式会社愛知事業所の企業緑地に、
植物や昆虫類のすみかとなるビオトープとして、
生き物マウンドを創出しました。



地域の学生や専門家とともに現地調査やワークショップを実施することで、生物多様性の認識が高められたのと同時に、たくさんの生き物呼び込めるマウンドを造成できました。

会長 大東 憲二 さん

今回の活動を通して、より生物多様性への貢献ができるような活発な活動のモチベーションとなりました。

参加した方の声